

学校教育を支援します！

審査にあたって

川や水を題材とした学習、あるいは川や水辺を体験の場とする学習活動を通して育成したい「子どもの姿」「子どもの力」が、具体的に示されていることを重視しています。

学校部門 助成の流れ

募集	募集期間 2023年10月2日(月)9:00～11月15日(水)18:00
結果	採用通知発送(郵送) 2024年3月下旬
活動期間	学校部門の場合 2024年4月1日(月)～2025年3月31日(月)に実施された取り組みが対象
助成金	前金払いの申請(希望する方) 2024年4月30日(火)まで受付
報告	学校部門の場合 2025年4月30日(水)までに報告書一式を提出
発表会	学校部門発表会(2024年度助成者対象) 2026年1月～2月 東京にて開催予定／優秀成果校の表彰

※申請者は校長、園長等とします。

※審査の結果によっては、助成区分(コース)を変更して採択することがあります。

※川や水とかわりない教育活動、助成金の使途が子供の学習に還元されないと判断される場合、審査対象外となります。

河川基金

河川基金は、政府の閣議了解に基づき1988(昭和63)年に設立されました。

河川に関する様々な調査・研究、市民団体が行う河川への理解を深める活動をはじめとして、河川・流域を通じて環境・防災・歴史文化等を学習する学校教育への助成を行っています。

高等学校・中学校のクラブ活動(部)を支援しています！

河川基金助成事業「研究者・研究機関部門 ジュニア研究者」では、高校生、中学生のジュニア研究者の自由な発想に基づき、川や水や流域に関するさまざまなテーマについて探究する調査・研究に対して助成を行っています。

助成金額	高等学校のクラブ活動 30万円	中学校のクラブ活動 20万円
------	-----------------	----------------

詳しくは「研究者・研究機関部門」の募集要項をご覧ください。

お問い合わせ



基金事業部
電話:03-5847-8303 E-mail:kikin-toi@kasen.or.jp
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2階
河川財団ホームページ <https://www.kasen.or.jp>



河川基金助成

2024年度【学校部門】



河川基金

子どもたちにもっと
河川や水に親しみ学んで欲しい

小・中・高等学校等、学校教育における
川や水にかかわる探究的な学習活動に助成し、
子どもたちの生きる力の育成を支援します。

川や水には、環境、防災、地域の暮らし・歴史・文化など学習に活かすことができる要素がたくさん存在しています。河川基金では教科学習や総合的な学習の時間において、川や水を題材・教材とした学習や川や水辺の体験学習に助成しています。

募集期間 2023年10月2日(月)～11月15日(水) 18時まで

募集方法 河川財団のホームページから申請

<https://www.kasen.or.jp/kikin/tabid290.html>

「申請書」をWeb申請手続きシステムから入力してください。
メール、郵送、持参での申請書受け付けはいたしません。



●募集要項、河川基金の詳細はHPをご覧ください。

■河川基金Webサイト

<https://www.kasen.or.jp/kikin/tabid288.html>



お問い合わせ

公益財団法人 河川財団
基金事業部

電話: **03-5847-8303**

(9:15～12:00 / 13:00～17:30 土曜、日曜、祝祭日を除く)

E-mail: kikin-toi@kasen.or.jp

子どもたちの「河川教育」に 河川基金助成をご活用ください

河川教育

河川基金では、学校のいろいろな教科や単元にとりいれることができ、教科の横断・連携した学びやアクティブ・ラーニングのテーマとしても有効な、川や水を題材・教材とした学習や、川や水辺での体験学習を「河川教育」として推奨しています。

河川基金助成(学校部門)

河川基金 学校部門の助成

- 幼稚園、保育所、認定こども園等における、川や水を題材とした学習、川や水辺を体験の場とする学習活動、園内等での水遊びによる水との触れ合いを通じた学習活動。
- 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等での、河川教育を導入するための準備活動、教科学習や総合的な学習の時間等における河川教育の実施にご活用いただけます。

よりわかりやすく、利用しやすくなりました

助成対象	助成区分	助成(活動)期間	申請できる助成金額
幼稚園・保育所・認定こども園等	幼稚園、保育所、認定こども園等	1年	10万円まで
小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等	河川教育とりくみ支援	1年	10万円まで
	単学年	1年	20万円まで
	複数学年 学年数2～3	1年	40万円まで
	複数学年 学年数4～6	1年	50万円まで

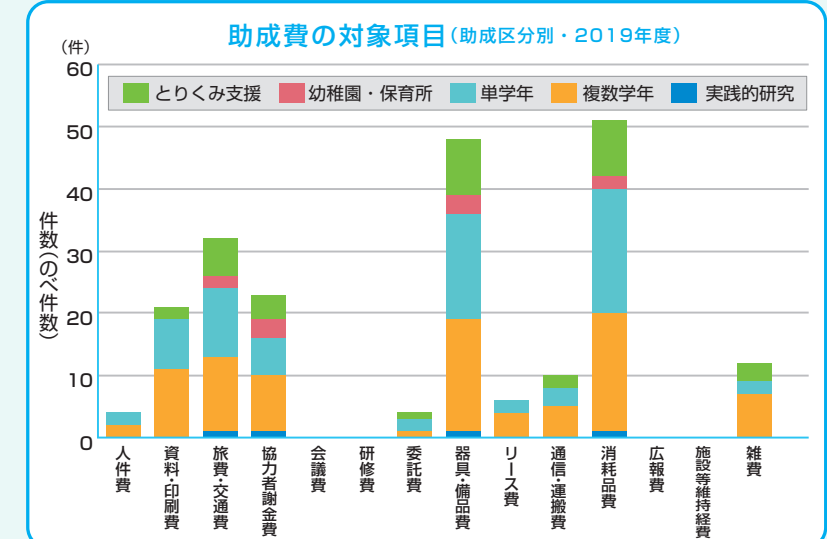
- 助成金額は各助成区分の上限以内であれば任意の金額で申請できます。
- 申請内容によっては、他の助成区分での採択となる場合があります。

2つの助成区分で春も募集します!

- 河川教育とりくみ支援
- 幼稚園、保育所、認定こども園等 対象助成
 - ・募集期間：令和6年4月1日～4月30日(予定)
 - ・活動期間：令和6年6月～令和7年3月末日

さまざまな用途に活用されています

河川基金の助成金は、ライフジャケット、撮影機材(デジカメ、一眼レフ、防水カメラ)、顕微鏡、ホワイトボードや、IT関係機器(タブレット端末、ドローン)などの器具・備品のレンタル・購入のほか、旅費・交通費(貸切バスなど)、協力者謝金、資料印刷の費用等に幅広く充てられています。



河川教育とりくみ支援

はじめて「河川教育」にとりくむ学校やとりくみを検討中の学校には、「河川教育とりくみ支援」の申請をお勧めします!

- 助成金：10万円
- 対象：小学校・中学校・義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校等
- テーマ：次年度、河川基金学校部門の「単学年」「複数学年」に申請することを目指し、河川・水教育へとりくむ準備のために必要な諸活動に対し支援を行います。

「河川教育とりくみ支援」の活用例

- 学習環境の整備 …… 河川学習に必要な教材やライフジャケットなど器具・備品の準備
- 学校教員の研修・教育 …… 川や水辺の事前調査、体験活動の試行、他校での実践の視察、研修会・発表会などへの参加、関連する資格の取得
- 支援体制の整備 …… 地域の関係機関、専門家や市民団体等との連携と強化をはかる、イベント・講演会への参加や共催・主催
- 教育課程の整備 …… 河川教育をとりいれたカリキュラム、指導計画、単元・教材等の開発検討のための資料作成や印刷費

河川教育研究交流会

河川教育研究交流会は河川財団が主催する全国規模の情報交換の場です。
河川基金助成事業で実施した活動内容を発表いただけます。
優秀な成果を表彰し、学校での河川教育活動を応援します。

令和4年度 河川教育研究交流会は、2023年2月4日、3年ぶりの対面開催となり、文部科学省初等中等教育局 藤野敦視学官のご講演、優秀事例6校の口頭発表、日本河川教育学会 金沢緑会長をコーディネーターとしたパネルディスカッション、文部科学大臣賞、国土交通大臣賞の各受賞校表彰などを実施しました。



優秀成果受賞校の皆さん



文部科学大臣賞受賞の岐阜市立長良小学校



文部科学省初等中等教育局
藤野敦視学官による講演

助成区分 幼稚園、保育所、認定こども園等

認めあう環境で 子どもたちの 自信が生まれる

ろりぽっぷ学園
ろりぽっぷ幼稚園・保育園(宮城県)



自由に遊びながら多くの体験を重ね、子どもたちの発見・気づきに寄り添う保育を心掛けている本学園では、NPOが作成・提供する環境学習プログラム事業を活用して、秋保の名取川上流を川遊びフィールドにした体験活動を行っています。プログラムの講師の方に、計画段階から教員の研修や、安全な活動を行うための準備などを教えていただき、体験活動の一日のスケジュールも子どもたちのトイレや着替えをどうするかなど細かなアドバイスを受けながら決めました。川での歩き方や川流れなどからはじめ、いろいろな体験活動のフィナーレは、年長組だけに設定した「川飛び込み」。子どもたちの間では「年長さんになったら川飛び込みができる!」という特別感がありますが、子どもによっては「飛ばない」選択肢もあり、飛び込む・飛び込まないは自分で考え自分で決めて行動します。飛べた子どもはそれなりの達成感を味わい、飛ばなかった子どもは「来年大きくなったらチャレンジしよう!」と思います。子ども同士がさまざまな選択を認め合う環境は、友だち関係を非常に良いものにし、他の場面でも自分の意見が言いやすい雰囲気を生みます。自分で選んで行動する。子どもたちは主体性や自己決定能力を身につけていきます。これは大きな成長です。一見遊んでいるだけのように見える活動にも実はたくさんの「学び」があります。

助成データ

ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷ幼稚園・保育園

助成区分：幼稚園、保育所、認定こども園等

助成金額：100,000円

■おもな助成経費(使途)

- 外部講師謝金 30,000円
- ライフジャケット 70,000円

助成区分 河川教育とりくみ支援

全学年をつなげた系統的な カリキュラムの開発

対馬市立仁田小学校(長崎県)



全学年をつなげた系統的なカリキュラムの開発をめざし、本校校歌にも歌われる仁田川を中心にした学びを「河川教育」として本格的に導入しようと考えました。1、2学年の生活科では網や釣り竿を用意して仁田川の「生き物探し」をしたり、地区資源保全協議会の協力を得てアユを捕ったりしました。従来から地域の方々と協働して仁田川での学びを行ってきましたが、これをさらにネットワーク化して、教職員の異動に関わらず持続的な河川教育ができるような基礎作りをしていきたいと考えます。5、6学年の総合的な学習の時間では「稲作り」を実施。農協の方々の指導を受けながら田植えから秋の稲刈りまで行いました。田んぼの水は仁田川から引いていますが、川にいるツシマアマガエルやニホンアマガエルが田んぼにもいることに改めて気づきます。体験的な学習を系統的に実践することで、子どもたちが仁田川に関心を持ち、川に生息する生き物や、川の水を使う稲作や畑作など、すべてが関連していることを理解し、川を守ろうとする気持ちにつながるものと考えています。

助成データ

長崎県対馬市立仁田小学校

助成区分：河川教育とりくみ支援

助成金額：100,000円

■おもな助成経費(使途)

- 資料印刷費 8,000円
- 水質実験用具、飼育箱 等 85,000円
- タッチペン10本 7,000円

河川基金助成 学校部門 採択校の事例 3

助成区分 単学年

4つのステップで身近な河川の魅力を 発見・発信——

吾川郡いの町立伊野南小学校(高知県)



身近な河川に対する関心を高め、大切にすることを醸成することを目指し、4年生の「総合的な学習の時間」に、学校近くの奥田川での活動を4段階で行いました。子どもたちが奥田川の魅力を発見するだけでなく、その魅力をより多くの人に知ってもらう発信までを行います。最初に、植物や生物など奥田川から連想することを話し合いウェビングマップに書き出しました。各自の家庭でも川について聞くようにしましたが、子どもたちも家族も知っていることが少ないことがわかりました。次に実際に奥田川に足を運んで観察を行い、川についてどんなことを知りたいかを再確認しました。別の日には地域の方々と清掃活動もしましたが、子どもたちは想像以上のごみの多さに驚き、きれいな川を保っていきたいという思いを強めたようです。3つめの段階では出前授業を行いました。「高知県西土木事務所」とは昔から氾濫しやすい川であった奥田川の治水についての授業。子どもたちは実体験と重ね、興味深く聞いていました。「西日本科学技術研究所」とは川に住む生物の採集と観察、水中酸素濃度の測定やパックテストによる水質調査を行いました。子どもたちは生活排水が川を汚している可能性を実感し、川を守っていくためにできることを考えました。最後に活動のまとめとして学習発表会を開催。さらに埼玉県の小学校とリモートでつないで相互発表会を実施し、それぞれの地域の川の魅力を伝えあいました。活動で学んだ奥田川の魅力はリーフレットにもまとめ、地域に発信しています。

助成データ

高知県吾川郡いの町立
伊野南小学校

助成区分：単学年

助成金額：200,000円

■おもな助成経費(使途)

- 資料印刷費 30,000円
- デジタルカメラ 8台 12,000円
- SDHCカード 10,000円
- ディスクカッター 30,000円
- その他：消耗品費
(ホッチキス、リングファイル、
専用カートリッジ針 等)

河川基金助成 学校部門 採択校の事例 4

助成区分 複数学年

多摩川学習は「つながり」を 生む河川教育——

大田区立嶺町小学校(東京都)



学校の目の前の多摩川が教材になるというのはとてもありがたいことです。生きた教材を用いることで子どもたちも目を輝かせて活動します。インターネットや本からでも「川の勉強」はできます。プリントアウトしたものや本に書いてあることを、よく意味が分からないまま見栄えよく発表することもできます。しかし、自分で体験したことや、身近な生き物や人に触れることで、調べたり、考えたりしてこそ得られる学びというものもあると思います。地域の資源を活用することで郷土愛が育まれると思います。

川の可能性は「つながり」だと思います。生き物同士のつながり、生き物と人とのつながり、歴史のつながり、地域のつながりなど、「つながり」を子どもたちが自分で発見し、探求することで学びの達成感が得られます。川の生き物調べをしていくと、子どもだけでは解決できない「壁」にぶち当たります。自分で実験や観察を行って検証する子どももいます。さらにそれが正しいかを博物館に手紙を書いて問い合わせをする子どももいました。発表が苦手な子どもが、シンポジウムで発表者となり自信をつけたりもしました。

多摩川学習は教育活動であるため、発達段階に応じて毎年リトライを続けながら活動しています。単年度で完結せず、複数年続けます。自分で学習したことを毎年まとめたり発信したりしながら、学年が上がるごとに深めていきます。次の学年で何をやるのか、子どもたちは期待感を持って進級します。表現力や伝えることの工夫を凝らしながらレベルアップすることができます。他の教科の学習についても関心や意欲が高くなっていることを実感します。

助成データ

東京都大田区立嶺町小学校

助成区分：複数学年

助成金額：400,000円

■おもな助成経費(使途)

- 外部講師への謝金 80,000円
- デジタルカメラ4台 60,000円
- ライフジャケット30着 60,000円
- その他：消耗品費
(SDカード、エアーポンプ、
パックテスト、水槽等)

